

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

| | | | |
|-----------|-----------------------------------|-----------|--------|
| (1) 取組名 | 相互物流と交流による中心市街地と中山間地域の元気づくりプロジェクト | | |
| (2) 実施団体名 | いわくに元気づくり地域協議会 | (3) 対象地域 | 山口県岩国市 |
| (4) 代表団体名 | 岩国市 | (5) 推薦団体名 | |

| | | | | |
|--------------|---|---|--|---|
| (6)実施した取組の内容 | 取組① | 市産市消コンパクトマーケットの構築 | | |
| | 実施主体 | いわくに元気づくり地域協議会・岩国市 | | |
| | 実施内容、 実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | | 実際の取組内容及びその結果 |
| | | (実施内容) | <ul style="list-style-type: none"> 農家と地場中小企業の連携推進による市産市消マーケットの構築 周辺中山間地域で生産される少量多品目農産物を中心市街地に集出荷する物流システムの構築 農家の月収+5万円の「小さな経済」の創出 上記にかかる需要意向調査 | <ul style="list-style-type: none"> 販売先や農産品の確保に向けた説明会の開催(平成20年10月 錦地域など計5ヶ所、農家300戸参加) 岩国内内のスーパー(ゆめタウン南岩国、中央フード)、アンテナショップ(西岩国駅構内、岩国駅前店舗)、医療機関(藤本医院)において、農産品等を販売(平成20年9月～)するとともに、今後、来店者に対して、需要意向を把握するためのアンケートを実施予定(平成21年2月10日～13日) スーパー等販売先へ出荷する農産品等の集荷・輸送体制の実験(平成21年1月～) |
| | | (取組の目的) | 地元の農産品が食べたいという消費ニーズと農村地域の生産者の所得向上のため「市産市消マーケット」の構築を図る。 | |
| | (取組の結果) | 平成21年2月までに、ほうれんそう、ブロッコリーなど30種・総額約900万円の農産品等がスーパーや医療機関等に出荷・販売されることが見込まれ、この取組で出荷農家の月収が2～5万円向上した。(この取組には約200戸が参加し、うち30戸が出荷済み) また、大手物流事業者(佐川急便)による農産品等の集荷・輸送の実験により、高齢者が多い出荷農家の負担軽減と一括輸送による安定的・効率的な物流システムの構築が確立できた。 | | |
| | 取組② | 川上・川下の支えあいシステムの構築 | | |
| | 実施主体 | いわくに元気づくり地域協議会・岩国市 | | |
| | 実施内容、 実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | | 実際の取組内容及びその結果 |
| | | (実施内容) | <ul style="list-style-type: none"> 既存インフラを活かし中心市街地への通院・通学・買い物等の利便性を確保する岩国型新交通システムとの連携 農産物を出荷した帰り便により、商店街から生活用品等を周辺集落に届ける生活支援システムの構築 小規模高齢化集落を支えるボランティアシステムの構築 上記にかかる需要意向調査 | <ul style="list-style-type: none"> 広域移動は錦川鉄道とJR岩徳線と位置づけ、これに円滑に接続する生活バスを設定するとともに、運行の効率化を図るため、路線の曜日運行や利用者の需要に応じた運行システム(デマンド型交通)を導入する「岩国市生活交通再編計画」を平成20年10月に策定(平成21年4月から試験運行を実施予定) スーパー等販売先への出荷農産品等の輸送の帰り便を活用して、生活物資や肥料等を周辺集落に輸送する生活支援システムの実験予定(平成21年3月) 高齢化が進み後継者不足に困っている地域などが、地域情報や取組などをUターン希望者に紹介し、当該地域への移住者の受入れを促進することによって地域を活性化させることを目的とした「IJU(移住)応援団」の設立(岩国市美和町など計11ヶ所) 小規模高齢化集落を対象に、生活支援希望などについて聴き取り調査を実施(東谷地域など計9ヶ所) |
| (取組の目的) | | 小規模高齢化集落を維持していくために必要な川上(中山間地域)と川下(市街地)の支え合いシステムの構築を図る。 | | |
| (取組の結果) | 持続的・効率的な生活交通基盤の確保による小規模高齢化集落の維持、農産物等の出荷輸送と帰り便を活用した生活物資等の往復輸送、移住応援団の活動による移住者の受入れ促進等により、川上(中山間地域)と川下(市街地)の支え合いシステムの構築の基礎が確立しつつある。 | | | |
| 取組③ | 新たな交流・ツーリズムシステムの構築 | | | |
| 実施主体 | いわくに元気づくり地域協議会 | | | |
| | 当初提案により予定していた計画 | | 実際の取組内容及びその結果 | |

| | | |
|----------------|---|--|
| | <p>(実施内容) ・既存の観光・交通インフラと周辺地域からの中心市街地へいたる清流「錦川」を活かし、周辺地域の農山村の生活・産業・文化を体験するツーリズムの展開 ・広島都市圏をターゲットとした体験交流商品の開発・販売促進 ・地元企業等の福利厚生・研修・CSR活動との提携促進</p> <p>(取組の目的) 農山漁村において生活・産業・文化等を体験できる魅力あるツーリズムを展開することで、都市と農山漁村の人々の共生・対流の促進を図る。</p> | <p>(実施内容) ・鉄道や船舶等の交通を活用したツーリズムモニターツアーを1ヶ所で実施(平成21年1月18日 玖西地域「朝市めぐりツアー」)、3ヶ所で実施予定(平成21年2月15日 柱島地域「柱島おさかなグルメツアー」、平成21年2月27日 錦地域「深谷峡温泉とハーブ満喫ツアー」、平成21年3月7日 美川地域「神楽ミニ体験とそば打ちツアー」) ・「錦川鉄道による温泉とグルメの旅」の企画・販売(平成20年11月～平成21年3月) ・帝人(株)岩国事業所と連携し、定住を目的とした職員アンケート・食堂における地産地消活動を実施予定(平成21年2月10日～)</p> <p>(取組の結果) 「朝市めぐりツアー」には12人が参加(応募15人)し、実施したアンケートから「今後も参加したい」との回答が多数あるなど、今後、ツーリズムの展開の可能性が確認できた。 また、「錦川鉄道による温泉とグルメの旅」の販売状況は平成21年1月12日現在で30件あり、広島都市圏をターゲットとした体験交流型観光の展開の可能性も確認できた。</p> |
| | <p>取組④ 物流・交流コア市場の開設</p> | |
| | <p>実施主体 いわくに元気づくり地域協議会</p> | |
| | <p>当初提案により予定していた計画</p> <p>(実施内容) ・中心部に農産物、特産品のアンテナショップ・販売拠点の開設 ・シンボルイベントとして各地域の特産品を食材とした「いわくに鍋ものがたり」を開催 ・周辺地域からの高齢者の医療・買い物・娯楽・各種手続き等のコンシェルジュセンターの開設 ・周辺地域への玄関口となるツーリズムセンターの開設</p> <p>(取組の目的) 広域合併の課題である「中心市街地と周辺地域の連携」を推進するため、物流・交流を促進し、中心市街地と周辺地域の相互理解を深め、地域の活性化を図る。</p> | <p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>(実施内容) ・西岩国駅構内(平成20年10月から週2日開催)や岩国駅前店舗(平成21年2月5日オープン)で、周辺地域の農産品等を販売するアンテナショップを開設。 ・平成20年5月に錦町で開設されたツーリズムセンター「やましろ体験交流センター」では、平成20年8月に子ども農山漁村交流プロジェクトの受入れを行った。 ・周辺地域からの高齢者等に対して、医療・買い物・娯楽・各種手続き等の紹介を行うコンシェルジュセンターを、岩国駅前に開設予定(平成21年2月)。 ・岩国駅前秋祭り(平成20年11月16日)、山代神楽共演大会(平成20年11月30日)、いわくに鍋ものがたり(平成21年3月7日開催予定)等イベントの実施と、ツーリズムの可能性を目的としたアンケートの実施</p> <p>(取組の結果) ツーリズムセンター「やましろ体験交流センター」には、神楽を中心とした問い合わせが30件あるなど交流の基盤の必要性が確認できた。 また、岩国駅前秋祭りには約2万人、山代神楽共演大会では約2千人が集まるなど交流の促進が図られている。</p> |
| | <p>平成20年度取組実施における体制・役割分担</p> <p>いわくに元気づくり地域協議会(下記7団体を含む多様な関係者で構成) ・山口東農業協同組合、岩国市農業協同組合(主担当:取組①) 市産市消コンパクトマーケットの構築に向けて、販売(消費)先や農産品出荷農家への説明・募集等を担当 ・岩国市(主担当:取組②) 生活用品等の輸送システムの企画・調整や岩国型新交通システムの構築等を担当 ・NPO法人ほっとにしき(主担当:取組③) ツーリズムモニターツアーの実施に当たって、地元朝市や農家、島づくり協議会等に対する協力要請等を担当 ・岩国商工会議所、やましろ商工会、岩国西商工会(主担当:取組④) 中心部商店街へのアンテナショップの開設や交流イベントの広報・実施を担当</p> | |
| <p>(7)実施体制</p> | <p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>・取組①市産市消を進めるに当たっては、周辺農家の協力なしに成功しないため、農協等が中心となって綿密な協力体制を築き、その結果、予想をはるかに上回る数の参加農家を確保することができた。 ・取組②小規模高齢化集落の意向調査では、個々の世帯に対する調査に際し集落の代表者と調査の方法等について事前の打ち合わせを行うなど、より実効性のある調査となるよう地元と十分な調整を図ることができた。 ・取組③地元朝市や農家、島づくり協議会等の協力を得てツーリズムモニターツアーが実施できたが、PR不足などによりツアーの参加者が十分確保できなかった。 ・取組④商工会が中心となって中心市街地の協力を得て、アンテナショップを開設することができた。また、交流イベントの実施については、地元商店街との綿密な調整により、当初計画になかった中通、中央通、本通の商店街の協力を得て開催することができた。 ・4つの取組ごとに部会を設置して取組を進める中で、部会同士が協働して行わなければならない取組について、連携や話し合いが十分でなかったケースがあり、取組間の調整と共通認識の醸成に時間を費やしてしまった結果、当初予定していた事業の実験期間が十分確保できなかった。</p> | |
| | <p>○成果1→ 中心市街地のにぎわいの再生</p> | |

| | | |
|----------------------------|--|--|
| (8)取組により得られた成果 | H19 アンテナショップ利用者0人 | H20(当初予定していた目標) アンテナショップ利用者100人/1日 |
| | H20(実際に得られた成果) ・西岩国駅構内のアンテナショップでは1日40~60人の利用者があり、また、岩国駅前店舗のアンテナショップは人通りの多い場所に位置するため1日平均70人程度の利用が見込まれることから、目標のアンテナショップ利用者100人を達成する見込み | |
| | ○成果2→ ①中山間地域集落の持続促進②交流受け入れによる農家所得の向上 | |
| | H19 限界集落数104箇所、体験交流人口100人 | H20(当初予定していた目標) 限界集落数104箇所、体験交流人口300人 |
| (9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点 | H20(実際に得られた成果) ・「朝市めぐりツアー」「柱島おさかなグルメツアー」などモニターツアーで217人、「錦川鉄道による温泉とグルメの旅」で30人、子ども農山漁村交流プロジェクトで小学生107人の計354人を受け入れ、目標の体験交流人口300人を達成 | |
| | ・出荷農家も順調に増加しており、また、安全・安心な農産物を生産するため農薬の使用の研修等を実施する「岩国広域直売研究会」も立ち上がるなど生産者側の体制は整いつつあるので、今後は販売先を「ゆめタウン南岩国」「中央フード」の2ヶ所からさらに拡大するため、量販店を中心とした販路拡大実験を実施する必要がある。 ・農産品等の集荷・輸送とその帰り便を活用した生活物資等の輸送といった中山間地域と市街地を結ぶ「農産物等相互物流システム」の安定的な運用に向けた実証実験を行う必要がある。 ・生活交通については、今後も利便性の確保を図りながら、効率的な運行に向けた実証実験を行う必要がある。 ・体験ツアーを定着させるために、効果的なPRや魅力ある商品開発、受け入れ側のマニュアルの策定が必要である。 | |
| (10)平成21年度以降の活動の見込み | 当初提案に予定していた平成21年度以降の展開 | 今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度 |
| | 1. 安定的な事業運営に向けた持続可能な組織への発展(平成21年度) | 1. 量販店等及びアンテナショップの安定的な事業運営の確立 ・実施主体:いわくに元気づくり協議会 ・「岩国広域直売研究会」の運営体制の向上による農産品等の生産拡大 ・年間を通じた消費者のニーズに基づく農産品等の生産・販売体制の確立 ・産量の拡大に伴い、スーパー「ゆめタウン南岩国」のほかに、フジグランなどの量販店への販路拡大等 〔活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1,330万円)〕 |
| | 2. システムの運用実証と検証、事業拡大(平成21年度) | 2. 「農産物等相互物流システム」「交流プログラム」等の事業拡大 ・実施主体:いわくに元気づくり協議会 ・大手物流事業者(佐川急便)との契約に基づく「農産物等相互物流システム」の事業拡大 ・修学旅行の誘致や子ども農山漁村交流プロジェクトによる受け入れなど「交流プログラム」への取組の拡大と事業採算性の検証 ・ツーリズムの広島都市圏へのPR活動の充実・強化 ・農家向けに民泊マニュアルを作成等 〔活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額510万円)〕 |
| 当初提案なし | 3. 「岩国市生活交通再編計画」に基づく生活バスの実証実験 ・実施主体:岩国市生活交通検討委員会 ・バスの実証運行、利用促進活動等 〔活用を希望する制度:国土交通省の地域公共交通活性化・再生総合事業を活用予定〕 | |

◆主な実施取組の内容◆

○市産市消コンパクトマーケットの構築

「農家の月収+5万円」を目標に、中山間地域で生産された農産物を中心市街地に向けて集出荷する、新たな「市産市消コンパクトマーケット」を構築。

- ・約200戸の農家が農産物等の出荷の取組に協力
- ・スーパー・アンテナショップ・医療機関において販売



総額900万円の農産物等が出荷・販売され、月収が2~5万円向上

- ・ヒトとモノが交流する新たな市場として、岩国駅前・西岩国駅構内にアンテナショップを開設



岩国駅前・西岩国駅構内の2箇所のアンテナショップで、平均利用者100人/日達成見込み

- ・物流事業者と連携し、行きは「農産物」の出荷、帰りは「生活物資」の配送といった、川上と川下を結んだ新たな効率的な物流システムを構築



高齢者が多い出荷農家における負担の大幅軽減

○新たな交流・ツーリズムシステムの構築

農山漁村の魅力ある生活・文化等を活用した体験型ツーリズムを展開することで、都市と農山漁村の人々の新たな交流を促進。

- ・市内4箇所モニターツアーを実施

- ①朝市めぐりツアー(2009年1月18日)
- ②柱島おさかなグルメツアー(同2月15日)
- ③深谷峡温泉とハーブ満喫ツアー(同2月27日)
- ④神楽ミニ体験とそば打ちツアー(同3月7日)



モニターツアーの実施や小学生の受け入れなどにより、体験交流354人が実現

○川上・川下の支えあいシステムの構築

点在する小規模高齢化集落の維持・活性化を図るため、川上(中山間地域)と川下(市街地)の支えあいシステムを構築。

- ・小規模高齢化集落を対象とした「IJU(移住)応援団」を設立、移住希望者に地域情報等を提供



◆取組実施による成果・今後の展開◆

- ・市産市消の取組は、出荷農家も順調に増加していることから、今後は販売先(量販店、給食センター等)をさらに拡大し、出荷量・販売額を伸ばすとともに、併せて物流システムの事業を拡大するなど、さらなる地域の活性化を図る。
- ・モニターツアーの実施等により、体験型ツーリズムの展開可能性が見えてきたことから、今後はさらなる修学旅行の誘致や広島都市圏へのPRを行い、新たなツーリズムの浸透と事業ベース化に向けたモデルの確立を図る。
- ・川上から川下への円滑な移動を確保し、小規模高齢化集落の元気づくりを支援するため、「岩国型新交通システム」の構築を図る。